

石狩河口橋^{ぎょう}

石狩川河口に橋を架けて欲しいという要望は、石狩町や国道231号沿線の市町村からは、早くから出ていました。しかし河幅は1500m近くもあり、地盤も悪いため、費用からみても技術的にも、そう簡単には架橋にふみきる訳にはいきませんでした。

昭和30年、道道札幌～留萌線が国道231号に昇格したことにより、車両の数も多くなり、石狩渡船の交通量も、最盛期の昭和46年頃には1日平均4～5千人と車両1,500台以上、年間延べ146万2000人、42万台の車を運ぶようになりました。夏期には札幌から厚田方面の海水浴場へ向う車が300mも列を作り、1時間半以上も待つこともしばしばありました。

昭和42年に1期工事が始まり、河口より約5km上流地点、左岸堤防より664m区間に橋を架け、昭和47年8月から第1期架橋部の交通が開始されました。

第2期工事は、堤防が築かれ橋の長さも1,412.7mとなり、昭和51年11月に完成しました。国道に掛かる橋としては、北海道で一番長い橋となっています。

河口橋が完成したことにより国道231号は切り替えられ、「動く国道」と言われた渡船場も、昭和53（1978）年3月に廃止されています。

（三島照子）



所在地	石狩市船場町・北生振 ^{ふなば きたおゆる}
路線名	一般国道231号
河川名	石狩川
開通	昭和47（1972）年7月20日
完成	昭和51（1976）年8月19日
橋の形	高さ34mの主塔（2本）に掛けられたケーブルでつるされた三角形式で「斜張橋」といわれています。
橋長	約1412.7m
橋幅	11.4mの2車線 片側に2mの歩行者自転車通路
工事期間	1期 昭和42（1967）年から46（1971）年 2期 昭和48（1973）年から51（1976）年
橋のメンテナンス	5年毎に、北海道開発局が行っています。

- (1) 北海道土木技術会鋼道路橋研究委員会（1984）北海道における鋼道路橋の歴史。北海道土木技術会鋼道路橋研究委員会。
 (2) 石狩町（1991）石狩町史中巻2。石狩町。